

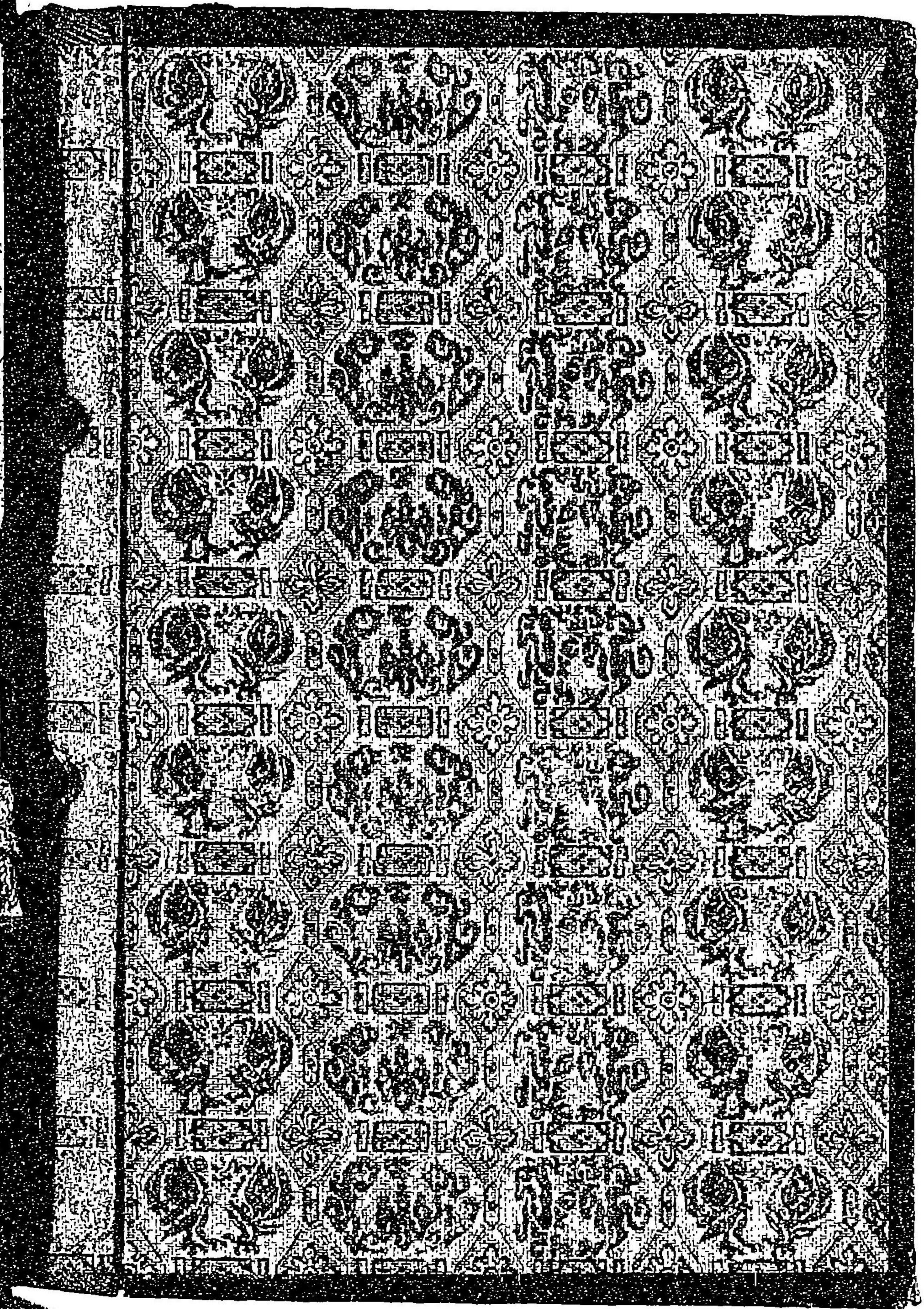
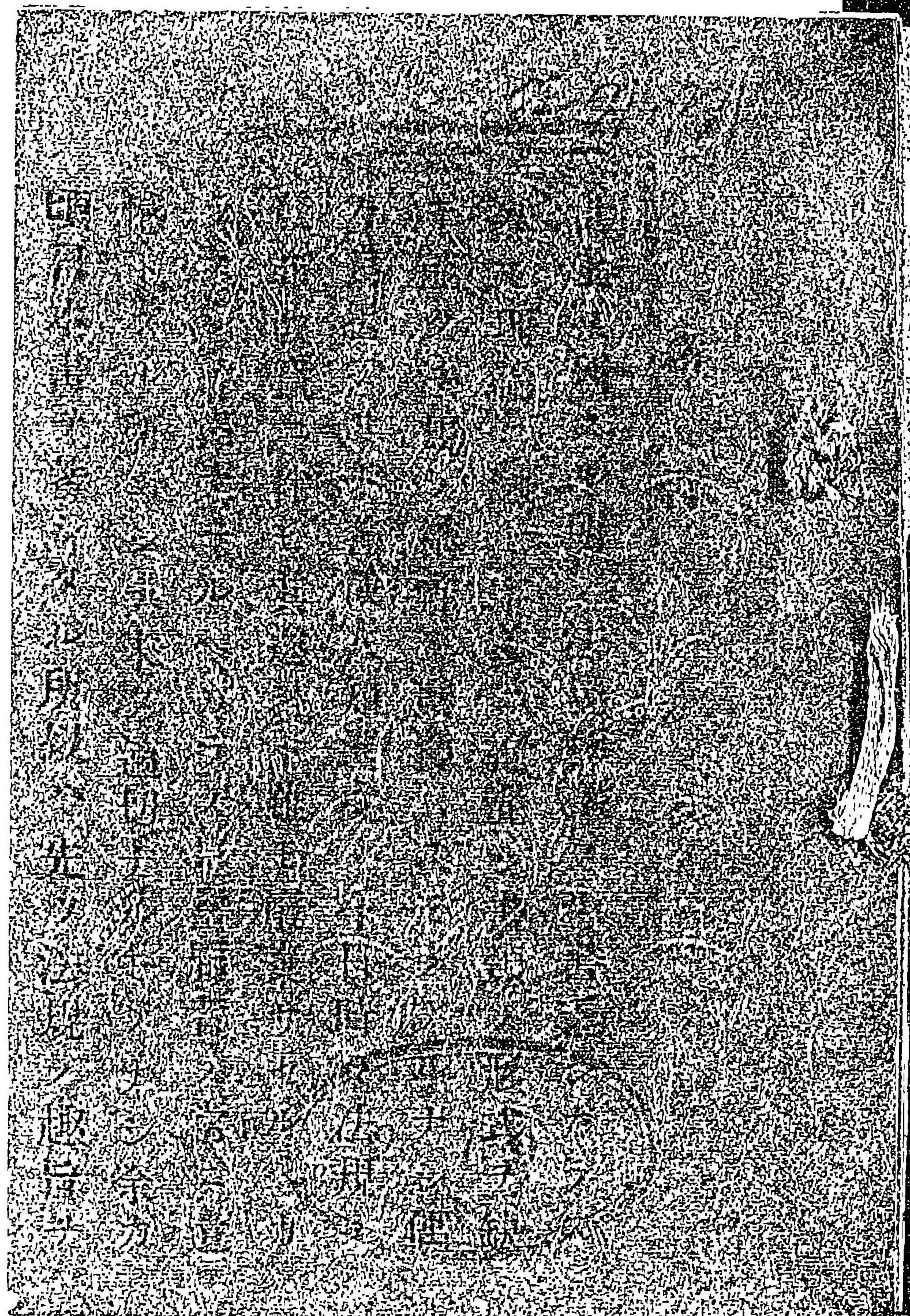
71
771

自加
在除

現行法規文例

法令考究會編纂





特71-771

緒言

世上發刊スル所ノ法規解譯タル書乏

シカラス

然凡理論ニ馳セ字義ニ拘泥シ書類ノ

形式ヲ缺

キ能ク法規ノ精神ヲ發揮スルモノア

ルナシ偶

々良書アリト善哉人知進度ノ今日時

々法規

發布改竄ニ伴ヒ其逸書ト雖モ廢棄サセ

ラズンテ惜マサルヘカラス是當局者ノ常ニ遺

憾トスル所ニシテ末々適切ナルモノナシ余カ

頃日本書ヲ著シタル所以ハ先ツ法規ノ趣旨ヲ

簡易明晰ニ説述シ事件ノ發生スル度々之カ假
設シ一睹ノ下ニ識別セシメ而シテ法規ノ改正
ト同時ニ追扁ヲ發行シ加除自在トナシ爰ニ現
行法規集ト題シ博雅君子ノ便益ニ供セン理由
トス乞執務者ノ參考ニ資スルアラハ幸甚

著者識

凡例

- 一 抑々現行法規發行綴篇ノ主意ハ卷ヲ類別シテ上中下ト爲シ憲法、議員法、民法、商法、刑法、民刑訴法、地方制度、警察衛生及監獄署恤救、官制、官印、官吏、勳位、爵族、教育、社寺、産業、交易、交通、財政、兵事、外交、文例(細目省略)各諸法規ヲ著載ス
- 一 夫レ帝國法規ノ萬頁網羅シタル條文ヲ總合シ之ガ一時ニ發兌スレハ諸子ノミニナラズ識者ノ誠ニ至難ニ属スル業トス吾人ガ日比發生スル事故ノ專ヲ必要ナルハ戶籍及諸願届トス故ニ正文法規ハ後兌トナシ戶籍及願届ノ文例ヲ數多蒐集シ先キトナシ順序發行ス
- 一 本書ハ各人ノ携帶ニ便セン爲メ極メテ小形トナシ懷中入ニ作製シタルモノニシテ我出版ヲ界革新ノ嚆矢ナリ
- 一 出版ノ技正タル注意怠ラザルモ誤謬ナキニシモアラズ著者ハ專心一意身ヲ此業ニ投シ訂正ニ勉ム看者若シ此意ヲ諒セハ指教ノ勞ヲ吞勿レ

明治四拾五年五月

日

著者識

帝國戶籍法文例目次

戶籍法	文例	目次
第一編 戶籍		
第一章 總說		
文字ノ書方及ヒ符號	塗抹改竄及ヒ訂正ヲ	一
	求ムルヲ	一
	届出地及届書ノ通數	二
	口頭ニテ届出ヲ爲ス	二
	場合	二
	届出人	三
	期間及制裁	三
	第二章 親族ノ範圍	四
	六親等内ノ分解	四
	三親等内姻族ノ分解	四

戶籍法文例目次

親族稱呼ノ詳解	親族ノ圖解	直系親族ト傍系親族ノ差異	三親等内姻族ノ圖解	膽本下附願ノ文例	第三章 身分ニ關スル届出	第一節 出生届	出生届ノ記載要件	出生届ノ文例(公生子)	全文例(私生子)	嫡生子ノ詳解	嫡生子	庶子	私生
四	四	五	八	九	九	九	一一	一二	一二	一三	一四	一四	一四

戸籍	法	文	例	目次
子ノ届出地	一四
届出義務者	一四
届出人ナキトキ	一四
汽車又ハ航海中ニ出生シタルトキ	一五
第二節	一五
嫡生子否認ノ場合	一五
否認裁判確定シタルトキ	一六
嫡生子否認届ノ文例	一六
第三節	一六
私生子認知届ノ記載	一七
要目	一七
私生子認知届ノ文例	一八
父母ガ私生子ヲ認知	一八

戸籍	法	文	例	目次
スル場合	一九
全私生子認知ノ文例	一九
胎兒ノ認知	一九
胎兒認知届ノ文例	二〇
承諾書	二〇
第四章 養子縁組	二〇
養子縁組届ノ記載事項	二一
養子縁組届ノ文例	二二
養親及養子ニ付テノ要件	二三
遺言ニヨリ養子ヲ爲ス場合	二三
縁組ノ無効 取消効力	二四
離縁	二五
協議上ノ離縁	二五
裁判上ノ離縁	二六

戸籍	法	文	例	目次
養子縁組届ノ記載事項	二七
養子縁組届ノ文例	二七
第五章 婚姻	二七
婚姻ヲ許サル者	二九
親族間ノ婚姻	二九
婚姻同意ノ場合	三〇
同 届ノ記載事項	三〇
同 届ノ文例	三一
同 夫婚姻届及其戸主権	三一
同 届	三三
第六章 離婚	三三
協議上ノ離婚	三五
裁判上ノ離婚	三五
離縁届ノ記載事項	三六
離縁届ノ文例	三七

戸籍	法	文	例	目次
離婚無効ノ場合	三八
第七章 開始及機關	三八
後見人タルヘキ者	三九
法定指定後見人	三九
後見人タル得サル者	四〇
後見開始届ノ文例	四一
後見任務ヲ辭スル場合	四二
後見人ノ取扱可キ事務	四三
後見人更迭アリタル時	四三
後見監督人ノ任務	四四
後見人更迭届	四五
後見任務終了届文例	四六
第八章 隠居	四六
隠居届ノ要件	四七

戸籍法例	目次	頁
裁判所ノ許可ヲ得タル隱居	四七	
隱居届ノ記載要件	四七	
隱居届文例	四八	
第九章 失踪		
失踪ノ要件	四九	
失踪宣告請求所ノ文例	四九	
失踪届ノ記載事項	五〇	
失踪届ノ文例	五一	
第十章 死亡		
死亡届ノ記載事項	五一	
死亡届ノ文例	五二	
全届出義務者	五二	
第十一章 家督相續		
家督相續開始ノ場合	五三	

戸籍法例	目次	頁
家督相續届ノ記載事項	五三	
家督相續人ノ順位	五四	
家督相續人ノ文例	五四	
全指定届文例	五五	
全指定取消届	五五	
指定家督相續人廢除届	五七	
第十二章 入籍		
離籍 復籍 拒絶	五八	
入籍届ノ記載事項	五九	
入籍届ノ文例	五九	
離籍届ノ記載事項	六〇	
離籍届ノ文例	六〇	
全届文例	六一	
離籍ニ因ル一家創立届	六一	
記載要件	六一	
全文例	六二	

戸籍法例	目次	頁
戸主カ家族ノ復籍シ拒ム場合	六三	
第十三章 絶家 廢家分家		
發字シ得ベキ者	六三	
廢家届ノ記載要件	六四	
廢家届ノ文例	六四	
絶家トハ如何	六五	
絶家ニ因ル一家創届	六六	
絶家及一家創立届文例	六六	
分家届ノ記載事項	六七	
分家届ノ文例	六七	
絶家再興届ノ記載事項	六八	
絶家再興届ノ文例	六八	
第十四章 氏名		
再興届ノ文例	六九	
族稱ノ變更	六九	

戸籍法例	目次	頁
氏名ヲ變更シ得ベキ場合	六九	
氏復舊届ノ文例	七〇	
名改稱届ノ文例	七一	
族籍變更届文例	七一	
名改稱願ノ文例	七二	
第十五章 轉籍		
就籍 除籍		
轉籍届ニ就テ	七三	
轉籍届ノ文例	七三	
本籍地變更届文例	七四	
就籍ニ就テ	七五	
就籍届ノ文例	七五	
除籍ニ就テ	七六	
除籍届ノ文例	七六	

第十八章 寄留	七七
寄留届ノ心得	七七
寄留届ノ文	七七
退寄留ノ文例	七八
復歸届ノ文例	七九
印鑑願文例	八〇

帝國戶籍法文例目次

戶籍法文例

法令攷究會編纂

第一編 戶籍

第一章 總說

讀者ハ爰ニ戶籍ノ手續ヲ作製スルニ當リ、其事件ニ依ル届出地ハ本籍地ニ爲スヘキカ、寄留地ニテモ可ナルヤ、其届書ハ一定ノ書式ニ依ラサルベカラザルカ、否口頭代理人ニテモ受理スベキヤ、又届書ノ通數、及略字符合、挿入削除、其他期間制裁等總テ能ク之ヲ會得シ置カサルヘカラズ否ラサレハ戶籍吏ニ於テ一々欠點ヲ指摘シ茲處ノ間違彼處ノ位置文字ノ訂正ヲ命セラル、等貴重ノ日時ヲ費消シ畢竟住宅ト役所間ニ御百度ヲ踏マサレハナリ、之當事者ノ迷惑ヲ感スル所トス故ニ完全ニ此關問ヲ潜ラント欲セハ先ツ法律ノ規定即チ記載事項ニ從ヒ作製シ而シテ上ハ以テ法官ノ勞ヲ省キ下ハ以テ自己ノ義務ヲ全フスルニ勉メサルヘカラズ左ニ章ヲ追テ順序詳記セン

注意事項

一 字畫ハ明瞭ニシテ略字符號ヲ用フベカラズ例ヘハ距離ヲ巨離ト書ク

ハ畧字ニシテ貳丁目五番地ヲ二ノ五ト書クハ符號ナリ、年又月日及
ビ生年月日ヲ記ス數字ニハ必ズ一、二、三、十ノ字ヲ用ヒスシテ壹
貳、參、拾ノ字ヲ用ユベシ

二 文字ハ塗抹改竄スルコトヲ得ズ、若シモ誤リテ挿入、削除ヲ爲ス場
合ニハ必ズ字ノ數ヲ欄外ニ本行何字削ル、又ハ挿入ト明記シ何レモ
認印ヲナシ且字體ヲ讀ミ得ヘキ用存シ置クベシ

三 届出地、及通數、身分ニ關スル届出ハ届人ノ本籍地ニ爲スヲ本則ト
ス然レ中ニハ届出人ノ都合ニ依リ寄留地ノ戶籍吏ニ届出ズルモ可ナ
リ、又時トシテハ一時旅行先ナル土地ノ役場ニ届出ル事モアリ、最
モ本籍地ニ於テ届出ヲ爲ス時ハ一通ニテ足ルモ寄留地、及旅行先ニ
テハ必ズ二通ヲ作製スルヲ要ス即チ一通ハ寄留地ノ戶籍役場ニ留メ
他ノ一通ハ本籍地ニ送ル必用アレバナリ

四 口頭ニテ届出ヲ爲ス場合、届書ハ書面ヲ以テ爲スヲ本則トスレモ其
届出事件カ急速ヲ要スル場合又ハ自書スルコト能ハサルトキ、此場
合ニ於テ届出人ハ戶籍吏ノ面前ニテ其事件ヲ陳述シ之ニ署名ヲ捺印
スベシ、若シ署名スルコト能ハサルトキハ代署セシメ捺印ニテタル
捺印スルコト能ハサルトキハ捺印シ其籍柄ヲ附記セシムベシ

五 届出人、ハ戶主ヨリ爲スヲ本則トスレモ必ズ戶主ニ限ルト謂フニモ
非ズ戶籍法上ノ義務者トシテ能力者ナルトキ其者ヲシテ届出義務者
ト爲ス、又届出ヲ爲ス可キ者ガ未成年者、又ハ禁治産者ナル片、此
場合ニ於テハ親權者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス、然トモ其届
出ガ任意ニ爲ス場合例ヘバ婚姻届出ノ如ク親權者ヤ後見人ガ代テ爲
スベキモノニアラサル届書ハ例ヘ無能力者ナリトスルモ其者ヨリ届
出ヲ爲スモノトスレハ期間及ビ制裁、ニハ一定ノ規程ノアルモノニ
シテ其起算ハ事件ノ發生タル日ヨリ又裁判確定ノ日ヨリ數フルトキ
ハ其裁判確定ノ正本カ發送セラレシ日ヨリ起算スルモノトス、以上
ノ届出ヲ怠リタルトキハ十圓以下ノ過料ニ處セララルベシ

第二章 親族ノ範圍

親族ニハ六等親内ノ血族、配偶者、三等親内ノ婚族、準親族等アリ左ニ
之ヲ解セシ

- 一 六親等内ノ血族 自己ノ血統六位以内ヲ謂フ
- 二 配 偶 者 正當ニ婚姻シタル夫婦ノ一方ヲ謂フ(夫妻)
- 三 三等親内ノ姻族 婚姻ヨリ續ケル親族
- 四 準血族法律ノ規定ニ因ル血族

次ハ六等親内ノ分解ヲ爲サシ

一等親 自己ノ父母、子

二等親 自己ノ祖父母、姉妹兄弟、孫

三等親 自己ノ會祖父母、伯叔父母、會孫、甥姪

四等親 自己ノ高祖父母、大伯叔父母、從兄弟姊妹、姪孫、玄孫、

五等親 自己ノ高祖會父母、會祖伯叔父母、伯叔從父母、從姪、會姪孫

來孫

六等親 自己ノ高祖會父母ノ父母、從祖伯叔父母、再從兄弟姊妹、從姪

孫、玄姪孫、日弟孫

次ハ三等親内ノ姻族ノ分解

一等親 夫又ハ妻ノ父母謂フ

二等親 夫又ハ妻ノ祖父母、兄弟姊妹ヲ謂フ

三等親 夫又ハ妻ノ會祖父母、伯叔父母甥姪ヲ謂フ

親族稱呼ノ詳解

父母子 父母トハ自己ヲ産ミタル親ヲ云ヒ、子トハ自己ノ産ミタル、
モノヲ謂フ

祖父 父母

兄弟 姊妹

祖父トハ實父母ノ父ヲ謂ヒ、祖母トハ實父母ノ母ヲ謂フ自
己ヨリ男ニシテ上ナルヲ兄ト云ヒ下ヲ弟ト云フ又自己ヨリ
女ニシテ年長ナルヲ姉ト云ヒ年少ナルヲ妹ト謂フ

孫

孫トハ實子ノ子ヲ謂フ

會祖父母

會祖父トハ祖父父母ノ實父ヲ云ヒ會祖母トハ祖父母ノ實母
ヲ謂フ

會孫

トハ孫ノ實子ヲ云フ

伯父 叔父

伯父トハ實父母ノ兄ヲ云ヒ叔父トハ實父母弟ヲ謂フ

伯母 叔母

伯母トハ實父母ノ姉ヲ云ヒ叔母トハ實父母ノ妹ヲ謂フ

甥 姪

甥トハ兄弟姊妹ノ生ミル男子ヲ云ヒ姪トハ女子ヲ謂フ

高祖 高祖父母

トハ會祖父ノ實父祖父母ノ祖父ヲ謂フ

玄孫

トハ全上祖父母ノ祖母ヲ謂フ

大伯 大叔

トハ實父母ノ實父母即チ祖父母ノ兄ヲ謂ヒ大叔父トハ實父
母ノ實父母即チ祖父母ノ弟ヲ謂フ

大母 大祖母

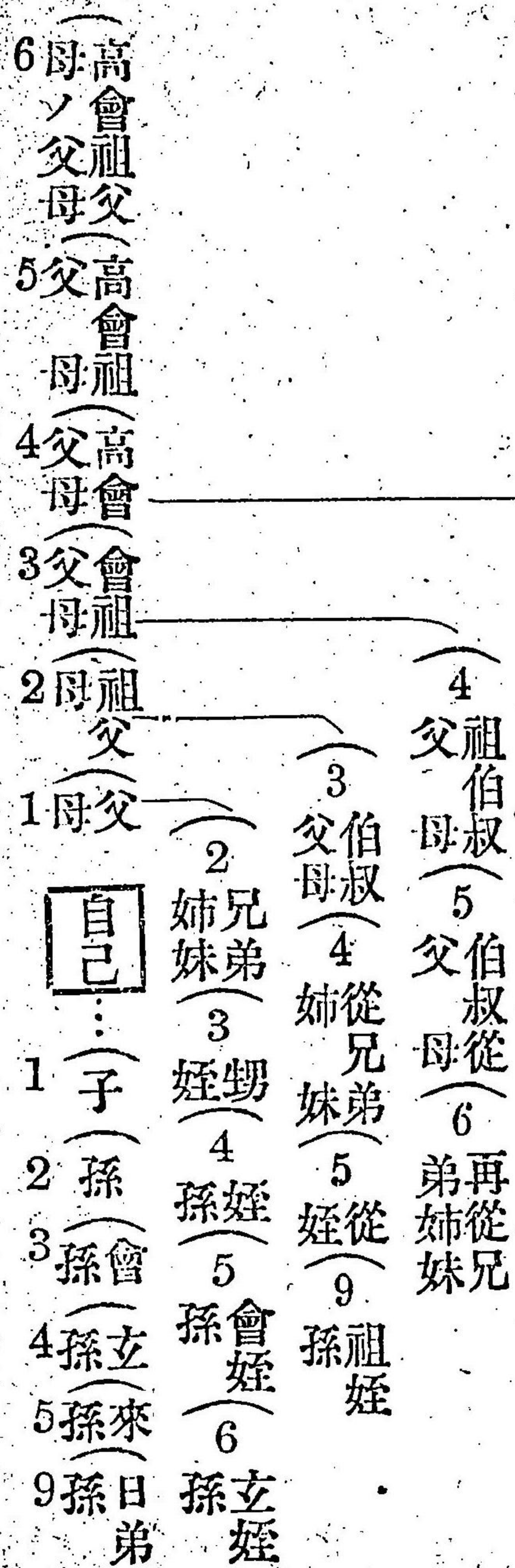
トハ實父母ノ實父母即チ祖父母ノ姉ヲ謂ヒ大祖母トハ實父
母ノ實父母即チ祖父母ノ妹ヲ謂フ

從兄 トハ伯叔父母ノ母生タル男子ノ中自己ヨリ年長者ヲ謂フ
 從弟 トハ伯叔父母ノ生ミタル男子ノ中自己ヨリ年少者ヲ謂フ
 從姉 伯叔父母ノ生ミタル女子ノ中自己ヨリ年長ナルヲ云フ
 從妹 伯叔父母ノ生ミタル女子ハ中自己ヨリ年少ナルヲ云フ
 姪孫 トハ甥又ハ姪ノ生ミタル子ヲ謂フ
 高會祖父母ノ實父母祖父母ノ會祖父ヲ謂フ
 高祖父母ノ實父母祖父母ノ會祖母ヲ謂フ
 會祖父母ノ兄父母ノ大伯父
 會祖父母ノ姉父母ノ大伯母
 會祖父母ノ弟父母ノ叔大父
 會祖父母ノ妹父母ノ叔大母
 從伯父 大伯叔父母ノ生ミタル男子ノ中自己ノ父又ハ母ヨリ年長ナル父又ハ母ノ從弟ヲ云フ
 從伯母 大伯叔父母ノ生ミタル女子ノ中自己ノ父又ハ母ヨリ年長ナル父又ハ母ノ從姉ヲ謂フ
 從叔父 大伯叔父母ノ生ミタル男子ノ中自己ノ父又ハ母ヨリ年少ナル父又ハ母ノ從弟ヲ謂フ

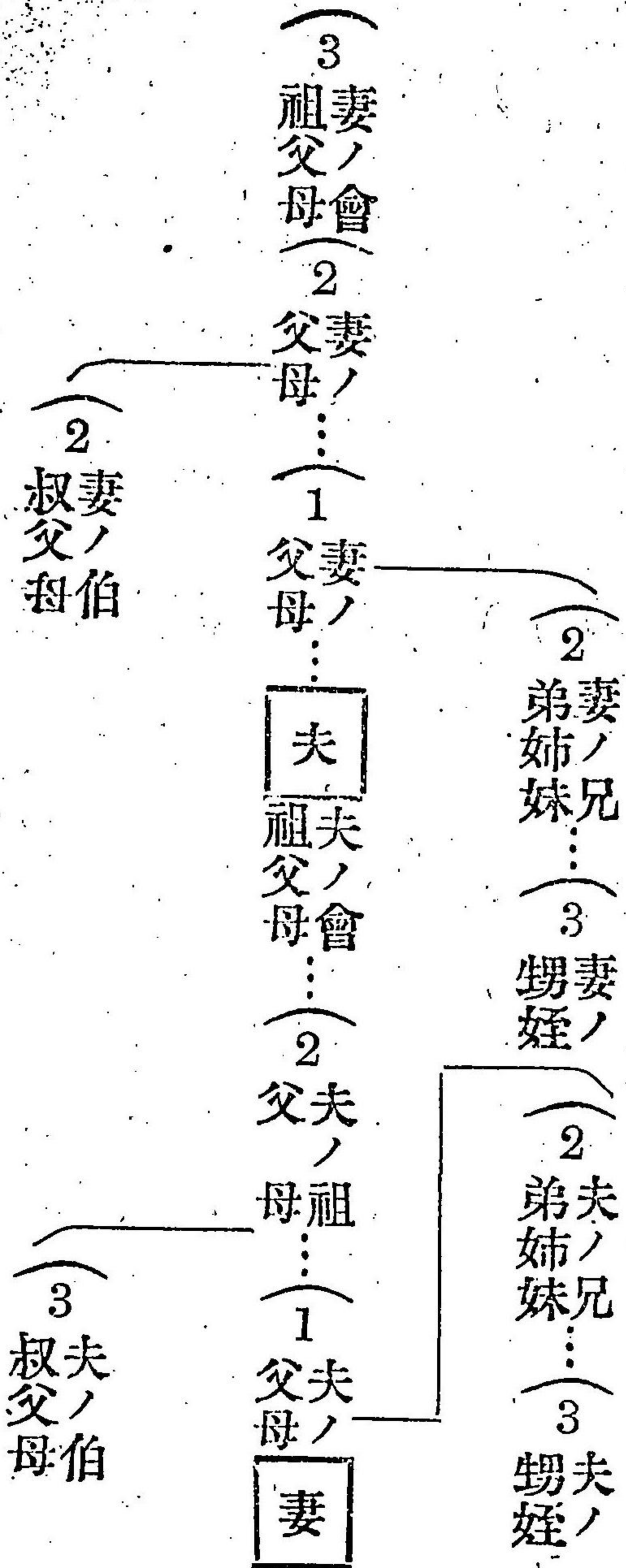
從叔母 大伯叔父母ノ生ミタル女子ノ中自己ノ父又ハ母ヨリ年少ナル父又ハ母ノ從妹ヲ謂フ
 來孫 從兄弟姉妹ノ子謂フ
 會姪孫 姪孫生ミタル子ヲ謂フ
 高會祖父母 高祖會父母ノ實父母六親等ノ五位即チ尊族六位ノ人母ノ父
 日弟孫 來孫ノ子ヲ云フ卑族ニシテ六位ノモノ
 從祖伯父 會祖伯叔父母ノ生ミタル男子ノ中自己ノ祖父母ヨリ年長ナル者ヲ云フ
 從祖伯母 會祖伯叔父母ノ生ミタル女子ノ中自己ノ祖父母ヨリ年長ナル者ヲ云フ
 從祖叔父 會祖伯叔父母ノ生ミタル男子ノ中自己ノ祖父母ヨリ年少ナルモノヲ云フ
 從祖叔母 會祖伯叔父母ノ生ミタル女子ノ中自己ノ祖父母ヨリ年少ナルモノヲ云フ
 再從兄 從伯叔父母ノ生ミタル男子ノ中自己ヨリ年長ナル者ヲ謂フ

再從姉 叔伯叔父母ノ生ミタル女子ノ中自己ヨリ年長ナル者ヲ謂フ
 再從弟 從伯叔父母ノ生ミタル男子ノ中自己ヨリ年少ナル者ヲ云フ
 再從妹 從伯叔父母ノ生ミタル女子ノ中自己ヨリ年少ナル物ヲ云フ
 從姪孫 從姪ノ子ヲ謂フ
 立姪孫 會姪孫ハ生ミタル子ヲ云フ
 左ニ親族ハ圖解ヲ示メサン

會祖伯叔
 從從伯叔父母



直系親族ト傍系親族ノ差異
 直系トハ前項圖解ニ示セシ如ク自己ヨリ上下六位ヲ直系ト謂ヒ其直系線以外即チ橫線ニ出タル者ヲ總稱シテ傍系トハ言フナリ又尊族トハ自己ヨリ上六位ヲ尊族ト謂ヒ自己ヨリ下六位ヲ卑族ト謂フ
 次ハ三親等内姻族ノ圖解ヲ示ス



謄本下附願

東京市神田區雉子町參丁目拾五番地
戸主士族官吏

淺野 十 象

右ハ何々ノ件ニ付(轉籍又ハ縁組ノ)必要之有候間戸籍ノ謄本御下附
相成度此段及御願候也

明治四拾五年九月九日

右

淺野 十 象印

東京市神田區戸籍吏青山殿

遠隔地ヨリ請求スルトキ手数料一枚ニ付十錢及郵便料ヲ添フベシ
戸籍一人ノミ請フ者ハ抄本下附願ト記スベシ

第三章 身分ニ關スル届出

第一節 出生 届

出生届ノ記載要件

- 出生届ニハ嫡出子ノ場合ト私生子ノ場合トアリ何レモ稍々其文例ヲ異ニ
セリ先ツ嫡生子ノ届出ヨリ示サン
 - 子ノ出生アリタルトキハ十日以内ニ左ノ諸件ヲ具シ之ヲ届出ズベシ
 - 一 子ノ名及ビ男女ノ別
 - 二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リ
タル者ナルトキハ其旨
 - 三 出生ノ年月日時及ビ場所
 - 四 父母ノ氏名、族稱、職業及ビ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏
名族稱職業及本籍地ノミヲ記載スルヲ要ス
 - 五 出生子ノ入ルベキ家戸主ノ氏名族稱職業及ビ創立ノ原因
 - 六 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨
- 左ニ文例ヲ示ス

出生届

東京市神田區雉子町參丁目拾五番地
戸主士族官吏

父 有馬 義親
母 八重
出生子 十象

一出生時 明治四拾五年九月五日午前五時
一場所 東京市神田區雉子町參丁目拾五番地

右出生致候間此段及御届候也

明治四拾五年九月九日

有馬 義親 印
明治拾八年拾月拾日生

東京市神田區戸籍吏岩倉由定殿

(十日以内ニ届出スベシ若シ其期間内ニ届出ヲ爲サルトキハ十
圓以下ノ過料ニ處セラル)

出生届

(是ハ私生子届ノ文例)

東京市牛込區稻田町貳丁目拾五番地
戸主平民無職

母 横山 タケ
私生子長女 タカ

一出生時 明治四拾五年九月五日午前五時

一場所 東京市牛込區稻田町貳丁目拾五番地

右出生致候處母ノ家ニ入ルヲ能ワサルニ付一家創立候間此段及御届
候也

明治四拾五年七月五日

横山 タケ 印
明治拾八年拾月五日生

東京市牛込區戸籍吏川崎新六殿

(母ノ家ニ入ルヲ得ルトキ此場合ニハ母ノ家ニ入ルコト能ワ
サルニ付一家創立ト拾八字削ル)

嫡出子 庶子 私生子ノ分解
嫡出子トハ戸籍法ノ届出ヲナシ婚姻中ニ出生シタル子ヲ謂ヒ庶子トハ母ノ知レザル父ト認知シタル子ヲ謂ヒ又私生子トハ戸籍法婚姻ノ届出ヲ爲サル父ノシレザル子ヲ謂フ

嫡出子 庶子 私生子ノ届出地
嫡出子出生ノ届出ハ父母ノ本籍地又ハ出生地若シクハ寄留地ノ戸籍吏ニ届出スヘシ

庶子ハ出生地又ハ父ノ本籍地寄留地ノ戸籍吏ニ爲スベシ然レ庶子カ父ノ家ニ入ルコト能ワザルトキハ其届出ハ母ノ本籍地ニ届出ベキモノトス私生子ハ母ノ本籍地又ハ寄留地若クハ出生地ノ戸籍吏ニ届出スベシ

届出ノ義務者
嫡出子 出生ノ届出ハ父ヨリ之レヲ爲スヲ本則トス然レ父カ旅行中失踪セシトカ其他不在ノ爲メ父ヨリ届出ヲ爲スコト能ワザルトキハ母ヨリ届出ヲ爲スベシ

庶子出生届ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子ノ出生届ハ母ヨリ之ヲ爲ス
届出義務者ガ届出ヲ爲スコト能ワザル場合
左ニ掲ケタルモノヨリ順序届出義務ヲ負フモノトス

第一、戸主、第二、同居者、第三、分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆、第四、分娩ヲ介抱シタル者
同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人カ爲スヲ以テ足ル

汽車又ハ航海中ニ出生シタルトキ
右ノ場合ニ於テハ到着地ヲ出生地トナス、航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長ハ二十四時間内ニ乗船者ノ中ヨリ選出シタル證人ノ前ニテ出生ノ要件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名捺印シ且證人ノ出生年月日職業及ビ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス
前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時間内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送附スルコトヲ要ス(戸籍法第七十八條參照)

第二節 嫡出子否認スル場合

嫡出子トハ前述ノ如ク婚姻中ニ生ミタル云ヲナリ民法第八百二十條エ曰ク婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若シクハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生ミタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタル者ト推定スト又同法第七百六十七條ニ曰ク女ハ前婚ノ解消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非ラザレバ再婚ヲ爲スコトヲ得ストアリ故ニ之ニ反シ婚姻成立ノ日ヨリ二百日以内

ニ出生シタルカ又ハ六ヶ月ノ期間ヲ經過セサル内ニ再婚シタル女カ産ミ
タル子ノ如キハ其子ハ前夫ノ子ナルヤ將タ後夫ノ子ナルヤ知ルヘカヲズ
此場合ニ於テ裁判所ニ否認ノ申請ヲ爲シ確定ノ判決ヲ待テ否認スヘキモ
ノトス

否認裁判確定シタルトキ

嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルルキ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ
左ノ諸件ヲ具シ裁判所ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出且既ニ出生ノ登記ヲ爲シ
タル者ニ付テハ登記ノ申請ヲ爲スヘシ
一 子ノ名及男女ノ別 二 出生年月日 三 否認ノ裁判カ確定シタ
ル年月日

次ハ嫡出子否認届ノ文例

嫡出子否認届

キク

右キク否認ノ裁判明治四拾五年九月八日確定致候間別紙裁判所ノ謄本
明治四拾五年九月七日生

和添此段及御届候也

明治四十四年十月九日登記變更相成度併テ申請候也
明治四十四年十月九日

京都府下南桑田郡神由村二拾參番地
戸主平民農長男

否認者 坂田 金次郎

明治拾五年九月五日生

京都府南桑田郡神由村戸籍吏星要殿

(一ヶ月内ニ届出スヘシ)

第三節 私生子認知

私生子認知ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
 - 二 出生ノ年月日
 - 三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
 - 四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名及ヒ本籍地
- 前項第四號ノ場合ニ於テハ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業、本

籍地及其戸主ト母トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

私生子認知届

東京市京橋區委女町貳拾九番地
戸主平民商善吉妹無職

母 西川 タケ
私生子女 サダ

明治四拾五年二月九日生

右私生子認知候間此段及御届候也

明治四十五年九月五日

東京市京橋區采女町五番地
戸主平民酒商

山田 甚吉
明治九年七月九日生

東京市京橋區戸籍吏加藤孝次殿

(出生子死亡後之ヲ認知セントスルトキハ出生子女トアル上ノ處ニ何年月日死亡ナル旨附記スベシ)

父ガ認生子ヲ出知スル場合

出生子無能力者ナルトキハ別ニ承諾ヲヨラセザレバ成年ニ達シタルトキハ本人ノ承諾アルニアラザレバ認知ヲ爲スコトヲ得ス

母ガ出生子ヲ認知スルトキ

此場合ハ棄子ノ如キヲ云フ母ニ於テ己ノ出生子タルコトヲ認知スル場合ナキニシモアラザレバナリ

母ノ胎内ニアル子ヲ認知シ得ベキ場合

父ハ母ノ胎内ニアル子ト雖モ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ要ス母ノ承諾ナキ以上ハ認知スルコトヲ得ズ

私生子認知届

大坂市東區西町貳丁目貳拾五番屋敷
戸主平民無職

母 高田 キク
私生子 昭

右胎兒認知候間別紙母ノ承諾書相添此段及御届候也

明治四拾五年九月五日

大坂市東區石町壹丁目五拾五番地
戸主平民醬油商

認知者

藤野鹿藏
明治拾七年九月六日生

大阪東區戸籍吏梅川武夫殿

(右ハ母ノ胎内ニアル子ヲ認知スル文例)

承諾書

自分儀妊娠中ノ胎兒今般貴殿ノ實子タルコトヲ認知セラレタルニ依
リ爰ニ承諾候也

大阪市東區石町貳丁目貳拾五番屋敷
戸主平民無職

明治四拾五年九月七日

高田スキ印

藤野鹿藏殿

第四章 養子縁組

縁組届ノ記載條件

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及本籍地
 - 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及本籍地
 - 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ビ本籍地
- 養子カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニヨリ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ
掲ゲタル事項ノ外婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名職業及ビ本籍地ヲ記載ス
ルコトヲ要ス

養子縁組届

東京市牛込區稻田町貳丁目拾貳番地
戸主士族官吏

養父 山本逸平

明治元年五月五日生

養母 トシ

明治參年拾月參日生

東京市京橋區南新川町五丁目五番地
戸主平民無職 十象弟無職

養子 才藤茂一

明治拾八年九月五日生

右實父 才藤高輔

右實母 才藤トセ

右養子縁組候間別紙何々同意書相添此段及御届候也
明治四拾四年五月拾五日

山本逸平

才藤茂一

東京市京橋區委女町五百六拾番屋敷
士族官吏

證人 大井數馬

明治拾五年九月五日生

東京市京橋區人綱町貳丁目拾五番地
平民吳服商

證人 井上五郎

明治元年九月八日生

東京市牛込區戸籍吏川崎新六殿

(養子縁組ノ届出ハ代人ヲ許サズ、届出地ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍役所ニ届出スルモノトス)

養親ニツイテノ要件

養親ナル者ノ年齢ハ二十歳以上即チ成年タラザルバベカラズ

會属又ハ年長者ハ之ヲ養親ト爲スコトヲ得ズ尊属トハ直系ニ因ラズ傍系

ニ因ラズ己レヨリ上例ヘバ伯父叔母祖父母ノ如シ

法定ノ推定家督相續人タル男子アルモノハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ズ

但シ女婿ト爲ス場合ハ之ヲ許ス

養親カ若シ後見人ナルトキハ被後見人ヲ養子ト爲スルヲ得ズ

配偶者タルモノハ其配偶者ト共ニスルニ非ラザレバ養子ト爲スコトヲ得ズ

戸主タル者ヲ養子ト爲スコトヲ得ズ但シ隠居又ハ廢家シタル片ハ之ヲ許ス

養子トナルモノニ付テ

養子トナル者ガ拾五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母ノ承諾ヲ得テ之ヲ

爲スニ非ラザレバ養子ト爲ルコトヲ得ザルモノトス
 繼父母又ハ嫡母ノ前記ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要ス
 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラン
 ト欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルヲ要ス但妻ガ夫ニ隨ヒテ他
 家ニ入ルハ此限ニ在ラズ

縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラン
 ト欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒ
 テ他家ニ入ルハ此限リニ在ラズ
 遺言ニ因リテ養子ヲ爲ス場合家督相續人ナキ者急病ニテ死スル臨終前ニ
 遺言ニテ養子ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス此場合ニ於テハ養子ト爲ルベ
 キ者又ハ之ニ代リテ承諾ヲ爲シタルモノ及ビ成年ノ證人二人以上ヨリ遺
 言カ効力ヲ生シタル後遲滞ナク縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一節 縁組ノ無効及取消

縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トス
 一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ
 二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲サ、ルトキ及其届出ノ條件ヲ欠キタルト

キ
 縁組ノ取消ヲ爲ス場合
 縁組取消ノ場合數多シ然レトモ其主ナルモノハ前項養子ト爲スコトヲ得
 ザル事項ノ場合ニ反シタルガ如ク例ヘバ養子タルモノカ養親アリ年長者
 ナルガ如キ法定ノ家督相續人アルニモ拘ハラズ養子ヲ爲シタルカ如キハ
 之ヲ取消スコトヲ得ベキモノトス

- 一 縁組ノ効力
- 一 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス
- 二 養子ハ縁組ニ因リ養親ノ家ニ入ル

離縁

離縁ニハ協議上ノ離縁ト裁判上ノ離縁トアリ左ニ之ヲ説カン
 協議上ノ離縁ヲ爲ス條件

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親カ養子ニ代リ縁組ノ承諾ヲ爲
 ス權利ヲ有スル者ト協議ヲ以テ離縁ヲ爲ス若シ養親カ死亡シタル後ニ養
 子ノ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲ス
 滿二十五年ニ達セザル養子カ協議上ノ離縁ヲ爲ストキハ父母即チ縁組ニ
 付キ同意ヲ爲ス權利アルモノ、同意ヲ得ルモノトス

- 裁判上ノ離縁
- 一 當事者即チ養親又ハ養子カ他ノ一方ヨリ虚待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
 - 二 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
 - 三 養親ノ直系尊属ヨリ虚待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
 - 四 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 五 養子カ家名ヲ瀆シ又ハ家産ヲ傾クベキ重大ナル過失アリタルトキ
 - 六 養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ
 - 七 他ノ一方カ自己ノ直系尊属ニ對シテ虚待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
 - 八 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ養女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ
 - 九 前九條件ノ場合ニ於テハ養親又ハ養子ノ一方ヨリ之ヲ被告トシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ル

- 一 養子離縁届ノ記載事項
- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職名及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 縁組ノ年月日
- 五 離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト
- 六 養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及妻ノ名
- 七 養子カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 八 養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

養子離縁届

東京牛込區稻田町壹丁目拾貳番地
戸主士族官吏

養父 山本逸峯

明治元年五月五日生

養母 トシ

明治參年拾月參日生

養子 茂一
 明治拾八年拾月五日生
 東京市神田區雉子町貳丁目五番屋敷
 戸主平民無職

兄 才藤徹治

明治五年九月九日生

茂一實父 無職 高輔

同實母 高輔 夕カ

右明治四拾四年五月拾五日縁組候處今般協議ノ上離縁候間別紙何々
 同意書相添此段及御届候也
 明治四拾四年九月五日

山本逸峯印

茂一印

東京市京橋區人強町 井上五郎印

明治元年九月八日生

東京牛込區戸籍吏川崎新六殿

第五節 婚姻

婚姻ヲ許ササル者

男ハ滿十七年女滿十五年ニ至ラザレバ婚姻ヲ爲スコトヲ得ズ
 配偶者アルモノハ重テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ズ
 女子ハ一旦他ニ稼キ離縁トナリタルトキハ離縁解消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經
 過セザレバ再ビ結婚ヲ爲スコトヲ得ス然レドモ若シ女ガ前婚ノ取消ノ前
 ヲリ懐胎シ即ニ其子ヲ生ミタル場合ハ何時ニテモ再婚シ得ルモ差支ナキ
 モノトス得
 姦通ニ因リ離縁又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲナスコトヲ
 得ズ

親族間ノ婚姻ヲ許サザル場合

直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ得スコトヲ得ズ
 但養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ此限ニアラズ(直系血族トハ父母子孫
 ノ如キヲ謂ヒ三親等内ノ傍系血族トハ婚姻ニヨリ續ズケル親族即チ兄弟
 姉姉ノ間伯叔父母ト甥姪トノ間ニ於テ婚姻ヲ許サザルモノトス
 血從兄弟姉姉ノ如キハ差支ナキモノトス
 直系姻族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ズ(直系姻族トハ婚姻ニ因テ

續ケル親族即チ夫妻ノ父母祖父母ノ如キヲ云フ)

婚姻ヲ爲スニ同意ヲ得ル場合

男子ハ滿三十年女ハ滿二十五年ニ達セザル間ニ婚姻ヲ爲サンスルトキハ父母ノ同意ヲ得ルモノトス若シ其家ノ父母ノ一方ガ死亡又ハ行衛不明或ハ家ヲ去リタルトキ其他己ムナキ事故ノ存ズルトキハ他ノ一方ノ同意ヲ以テ足ル未成年者ニシテ父母共ニ知レザルカ死亡及ビ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ後見人及親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スモノトス
繼父又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セザルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得禁治産者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルモノトス

婚姻届出ノ記載事項

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地
- 二 父母ノ氏名、職業及本籍地
- 三 當事者カ家族タルトキハ戸主ノ氏名、職業及本籍地
- 四 入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ其旨
- 五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ラサルトキハ其旨

六 婚姻ニヨリテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其職名及

ビ出生ノ年月日

當事者ノ一方カ他家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニヨリテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ゲタ事項ノ外前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載ヲスルコトヲ要ス

婚 姻 届

東京市芝區新堀町壹丁目拾五番地
戸主士族官吏

夫 近 藤 確 幸

明治拾八年拾月五日生

右 父 無職近 藤 定 正

右 母 右 母

大坂市東區内本町貳丁目拾五番屋敷
戸主士族官吏啓介三女

妻 小 林 ア イ

右婚姻候間別紙何々同意書相添此段及御届候也

明治四拾四年五月八日

右父 小林通敬
右母 マツ

明治貳拾年九月五日生

近藤 確 幸印
小林 ア イ印

東京市芝區源助町壹丁目五番屋敷
平民洋服商

證人 藤井守一印

明治元年九月八日生

大坂市東區内本町參丁目七番屋敷
平民雜貨商

證人 濱口爲治印

東京市芝區戸籍吏福嶋省吾殿

入夫婚姻トハ如何及女戸主ガ入夫ヲムカエタル場合ノ戸主權
入夫婚姻トハ女戸主ガ其家ヲ去ラズシテ夫ヲムカウルヲ謂フ又
女戸主ガ入夫ヲムカエタルトキハ入夫ハ當然其家ノ戸主ト爲ルヲ本則ト
ス然レトモ女戸主婚姻届出ニ戸主權ハ當分讓ラズト留保スルトキハ互ニ
戸主トナルコトヲ得ザルモノトス若シ女戸主ガ戸主權ヲ讓リタルトキハ入
夫ハ其事實ノ知リタル日ヨリ十日以内ニ家督相續届ヲ爲スモノトス

入夫婚姻届

東京市銀座區銀座四丁目拾五番屋敷
戸主平民教師

妻 前田ヒサ

明治拾年九月五日生

三重縣志摩郡加茂村五番地官吏
右父 前田達一

トキ

大坂市南區六万休町五百七拾五番地

戸主士族官吏甚産弟教師

夫 小谷 秀 嶺

明治拾參年五月五日生

右父亡 泰 忠

右母 阿 伊

右入夫婚姻候間別紙同意證書相添此段御届候也

明治四拾五年九月五日

前田 ヒ サ 印

前田 秀 嶺 印

東京市神田區西小川町百拾五番屋敷

官吏

證人 片山 四郎 印

明治元年九月七日生

東京市神田區西小川町四拾九番屋敷

證人 永田 實一 印

明治五年九月八日生

東京市銀座區戸籍吏香取私一殿

第六章 離婚

離婚ニハ前述養子離縁ト同ク協議上ノ離縁ト裁判上ノ離縁トアリ左ニ之ヲ示ス

協議上ノ離婚トハ換言セハ相談スクノ離婚ノ事ナリ滿二十五年以下ナル者ハ何ノ思慮モ無ク離婚ノ相談ヲ爲スモノ多カレバナリ故ニ婚姻ニモ同意セザルベカラズ以上ノ如ク協議マトマレバ届出ヲ爲スベシ之ヲ協議ノ

離婚トハ謂フナリ

裁判上ノ離婚 左ニ主ナルモノヲ示ス

一 配偶者ガ離婚ヲ爲シタルトキ

妻ガ姦通ヲ爲シタルトキ

二 夫ガ姦通罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキ

三 配偶者ガ偽造、賄賂、猥褻、竊盜、強盜、作偽取財、受寄財物費

消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第七十五條第二百六十條ニ掲ゲタ

ル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁

錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

五 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘザル虚待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

六 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ

- 七 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 八 配偶者ガ自己ノ直系尊屬ニ對シ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
- 九 配偶者ノ生死ガ三年以上分明ナラザルトキ
- 十 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離縁アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ縁組ノ取消アリタルトキ
- 右條件ノ一二當ルトキハ夫婦ノ一方ハ離婚ノ請求ヲ裁判所ニ提起スルコトヲ得ルモノトス

離婚届ノ記載事項

- 一 當事者ノ氏名職業及ビ本籍地
- 二 父母ノ氏名職業及ビ本籍地
- 三 當事者ガ家族ナルトキハ戸主ノ氏名職業本籍地
- 四 婚姻ノ年月日
- 五 離婚ガ協議又ハ裁判ニ因ルトキ
- 六 當事者ガ復籍スベキ家ノ戸主ノ氏名職業及本籍地
- 七 當事者ガ復籍スベキ家ナキトキハ其事由
- 次ニ文例ヲ示ス

離婚届

東京市芝區三田四國町百貳拾五番地
戸主平民大工職

夫 中島 定雄

明治拾八年五月七日生

右 父大工職中島 三吉

右 母 妻 田メ

妻 田ケ

明治拾九年拾月五日生

神奈川縣横濱市花吹町壹丁目五番地
戸主平民飲食業 田カガ復飯スベキ家ノ戸主

兄 栗林 竹松
父 栗林 廣吉
同 母 田ケ

右明治四拾五年六月九日婚姻候處今般協議ノ上離婚候間別紙何々同意證書相添へ此段及ヒ御届候也
明治年月日

中島定雄印
栗林タケ印
東京市麻布區材木町貳丁目拾九番地
煙草商

證人 森國太郎印

明治參年九月七日生

東京市麻布區材木町貳百四拾九番地
吳服商

證人 堀尾正吉印

明治參年五月五日生

東京市芝區戸籍吏上妻正雄殿

婚姻ノ無効トナル場合

- 一 人違其他ノ事情ニ因リテ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ
- 二 當事カ婚姻ノ届出ヲ爲サザルトキ

第七章 後見人

後見人トハ如何ナル人ヲ云フヤ

- 一 親權ヲ行フ父母又ハ母ハ禁治産者ノ後見人トナル
 - 二 妻カ禁治産者ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人トナル夫後權人タラザトキハ父母後見人トナル
 - 三 夫カ禁治産者ノ宣告ヲ得ケタルトキハ妻其後見人トナル妻其後見人タラザルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父母後見人トナル
 - 四 親權ヲ行フ父母及ビ配偶者ナルトキ若シクハ此等ノ者ガ後見人タラサルモノハ戸主其後見人トナル
- 後見人トハ親權ヲ行フモノナキ未成年者又ハ禁治産者其者ヲ保護監督スルヲ謂フ後見人ニ其指定法定選定後見人ソ三種アリ左ニ之ヲ記カン
- 指定後見人 成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得此遺言ニ依リ後見トナルモノヲ指定後見人ト謂フ
- 法定後見人 此後見ニハ禁治産者ノ後見人ト未成年者ノ後見ト二ツアリ
- 先ツ禁治産者ノ後見人ヨリ示サン

未成年者ノ法定後見人 未成年者ニ對シ親權ヲ行フモノナリ又親權者カ後見人ヲ指定セス且法定ノ後見人モナキトキ戸主其後見人トナル
選定後見人 トハ右ニ示セシ指定法定ノ後見人タルモノアラサルトキハ親族會ハ此後見人ヲ選定スヘモノトス之ニ因リ後見トナリタルモノヲ選定後見人ト云フ

後見人ト爲ルコトヲ得サルモノ

- 一 未成年者
 - 二 禁治産者及準禁治産者
 - 三 剝奪公權者停止公權者
 - 四 裁判所ニ於テ免點セラレタル法定代理人又ハ保佐人
 - 五 破産者
 - 六 被後見ニ對シ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタルモノ及其配偶者並ニ直系血族
 - 七 行方ノ知レタルモノ
 - 八 裁判所ニ於テ後見人ノ任務ニ堪ヘサル事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタルモノ
- 右ニ示セシモノハ後見人タルコトヲ得サルモノトス

- 一 後見開始届ノ記載事項
- 二 被後見人ノ氏名、出生年月日、職業、本籍地及住所
- 三 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及本籍地
- 四 後見開始ノ原因及年月日
- 五 後見人就職ノ年月日
- 六 右ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ届出スベキモノニシテ後見人ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲ス

後見開始届

東京市下谷區御徒士町貳百拾五番地
戸主無職

被後見人 武田熊一

明治參拾年九月五日生

東京市下谷區御徒士町百拾五番地
士族官吏

後見人 山崎昇三

明治三年九月五日生

右熊一ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治四拾五年九月拾五日後見開始同月拾九日遺言ニヨリ就職候間別紙後見人指定ニ關スル遺言ノ謄本相添此段及御届候也
 明治四拾五年九月八日

東京市下谷區戶籍吏武藤宇七殿

山崎昇三郎

後見ノ任務ヲ辭シ得ル場合

- 一 婦女ハ何時ニテモ後見ヲ辭スルコトヲ得ルモノトス
- 二 軍人トシテ現役ニ服スベキモノ
- 三 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルモノ（公務トハ官吏公吏議員ヲ云フ）
- 四 自己ヨリ先キニ後見人タルベキモノガアル事由ノ存セシ爲メニ代リ後見人ノ職ニ就キタリシニ其後見人タルベキノ、事由カ消滅セシトキハ辭任スルコトヲ得ベキモノトス
- 五 禁治産者ノ後見人ヲ十年以上爲シタルトキハ辭任スルコトヲ得ル右ノ外正當ノ事由アリタルトキハ辭任スルコトヲ得ルモノトス

後見人ノ取扱ヘキ事務

後見事務ニハ身上ト財産ニ關スル場合トアリ何レモ親權者即チ父母ト同一ノ權利義務ヲ有スルモノニシテ監護、教育、店所ノ變更、兵役出願許可、懲戒、營業ノ許可其取消、財産ノ管理等總テ之ヲ定ムルモノトス但シ親權ヲ行フ父母カ定メタル制限ニ對シテハ親族會ノ同意ヲ得ルモノトス又禁治産者ノ後見人ニ對シテハ禁治産者其資産ニ應シテ療養看護ヲ爲シ瘋癲病院ニ入院セシムルカ又ハ私宅ニ監禁スヘキカハ親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムルモノトス（次ハ後見人ノ財産ニ付テ述ヘン）

後見人ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ被後見人財産ヲ調査シ且其財産ノ目錄ヲ一箇月内ニ調製スルモノトス若シ其目錄ヲ調製スル場合ニハ後見監督人ノ立會ヲ求メス又ハ其目錄ヲ一箇月内ニ調製セサルトキハ無効及免黜セラルヘキモノトス

後見人ハ被後見人ニ對スル毎年費用ニ支出スヘキ金額ハ其就職ノ初ニ親族會ノ同意ヲ得テ豫定スルコトヲ要ス前項豫定金額ヲ變更又ハ超加スルコトヲ得ス若シ變更超加ヲ爲ス場合ハ親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ爲ス

後見人ハ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ親族會ノ定メタル額ニ達シタルトキハ一定ノ期間内ニ寄託スヘキ場所ニ納ムルモノトス若シ期間内

ニ納メサルトキハ法定ノ利息ヲ拂ハサルモノトス
推定後見人選定後見人ハ每年少クモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會
ニ報告スヘキモノトス

後見人ヲ被後見人ヲ代表シテ營業ヲ爲シ又ハ未成年者カ營業ヲ爲スコト
ハ同意スルハ親族會ノ同意ヲ得ルモノトス

後見監督人任務

一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト

二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テハ遲滯ナク其後任者ノ任務ニ就クコト
ヲ促シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シ其選任ヲ爲サシムルコト

三 急迫ノ事情アルトキハ必要ナル處分ヲ爲スコト

四 後見人又ハ其代表スルモノト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ

後見人ヲ代表スルコト

以上ノ諸項ハ其主ナルモノトス

後見人更迭アリタルトキノ届出

後見人ノ更迭アリタルトキハ後任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ後
見人開始届ノ記載條件及ヒ前任者ノ氏名ヲ具シテ届出ズヘシ

後見人更迭届

東京市下谷區御徒士町貳百拾五番地

戸主平無職

被後見人

武田熊一

明治三拾年五月五日生

山崎昇三

東京市下谷區御徒士町五拾番地

戸主平民

後任後見人

山田良吉

明治拾年五月五日生

右熊一ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治四拾五年四月九日後見開
始同年四月拾五日前任者ト更迭就職候間別紙族親會決議書又ハ何々
相添此段及御届候也

明治四拾五年四月拾九日

東京市下谷區戸籍吏萩原秀次殿

山田良吉印

後見人任務終了シタルトキ
此場合ニハ後見人ハ後見監督人立會ヲ乞ヒ二ヶ月内ニ管理ノ計算ヲ爲ス
ベシ但シ親族會ニ於テ期間ヲ伸長シタルトキハ此限リニ非ズ

後見任務終了届

東京市下谷區御徒土町三番地戸主無職

被後見人

武田熊一

東京市下谷區綿町五番地戸主無職

後見人

岩田良吉

明治拾年五月五日生

右ハ明治四拾五年九月九日就職候處明治四拾五年九月拾日被後見人
丁年ニ達シ任務終了候間此段及御届候也

明治四拾五年九月拾日

東京市下谷區戶籍吏岩谷東助殿

岩田良吉印

第八章 隱居

隱居ニハ戸主權ノ喪失ニヨリ隱居ヲ爲ス場合ト裁判所ノ許可ヲ得
テ隱居ヲ爲ス要件ヨリ述ベシ

一 滿六十歳以上ナルトキ

但シ完全ノ能力アル家督相續人が相續ノ單能承諾ヲ爲スコト(完全
能力トハ成年者ニシテ禁産者ヤ妻子未成年ノ如キモノニアラス)

二 女戸主ハ年齢ニ拘ハラズ隱居ヲ爲スコト得ルモノトス

有夫ノ女戸主隱居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ得ルモノトス

裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲ス場合

一 主戸ガ疾病ニ罹リ家政ヲ執ルコト能ハザルニ至リタルトキ

二 本家ノ相續又ハ再興ヲ爲ヘキトキ

三 其他己ムヲ得ザル事由ニ因リタルトキ

右三項ニ該當スルトキハ許可ヲ得テ隱居ヲ爲ス但シ法定ノ推定家督相續
人アラザルトキハ豫メ家督相續ヲ定メ其承認ヲ得ルヲ要ス

隱居届記載要件

一 隱居者ノ氏名族籍出生ノ年月日職業及本籍地

二 家督相續人ノ名出生ノ年月日職業及家督相續人ト隱居者トノ關係

三 隱居ノ原因

隱居届

東京市本所區相生町貳百五拾番屋敷
戸主平民薪炭商

隱居者 中村 薫

家督相續人 薫次男 直一

明治拾八年七月六日生

私儀滿六十歳トナリ家督相續人タル直一成年ニ達シタルニヨリ隱居
致候此段及御届候也

明治四十五年九月八日

中村 薫印
中村 直一印

東京市本郷區戸籍吏菊地理一殿

第九章 失踪

失踪トハ如何及其要件

失踪トハ從來ノ住所又ハ居所ヲ去リ行衛不明ナルモノヲ謂フ裁判所ハ之
ニ對シ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪者ニ對シ法律上死亡ナル判定ノ宣告
ヲ爲ス左ノ場合ニ於テ期間滿了シタルトキハ失踪者住所地ノ區裁判所ニ
請求スルモノトス

- 一 不在者ノ生死ガ七年間分明ナラザルトキ
- 二 戰地ニ臨ミ其危難ニ遭遇シタル者ノ生死ガ戰爭ノ止ミタル後二年
間分明ナラザルトキ
- 三 沈没シタル船舶中ニ至リタル者ハ其ノ危難ニ遭遇シタル者ノ生死
ガ船舶ノ沈没シタル後三年間分明ナラザルトキ

失踪宣告請求ノ訴

神戸市漁師町五番地戸主平民漁業

本人 坂田 宗吉

右 同 所 宗吉妻

申立人 坂田 ラク

申立ノ原因タル事實

申立ノ夫宗吉ハ明治四拾年九月拾五日同村ノ者數名ト共ニ何海岸ヲ去ル參拾哩餘何沖ニ於テ漁業中暴風ニ遭遇シ風波ノ爲メ船体沈没シ行衛不明ニシテ爾後百方探查スルモ知ルニヨシナク今日至ルモ猶生死分明ナラザルニ付己ムヲ得ズ爰ニ請求ヲ爲ス次第ニ御座候

證據方法

- 一 云々
- 一 附屬書類ノ表示
- 一 戸籍 謄本
- 一 親族會ノ證明書
- 一 何新聞廣告

明治四拾五年九月三日

申立人 坂田ラク園

神戸市區裁判所判事何某殿

失踪届ノ記載事項

- 一 左ノ諸件ヲ具シ裁判所ノ謄本ヲ添ヘテ十日内ニ届出スベシ
- 一 失踪者氏名出生ノ年月日職業及本籍地

- 二 失踪ノ宣告アリタル年月日
 - 三 失踪者カ家族ナル者ハ戸主ノ氏名、族稱及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄
- 失踪届

神戸市漁師町五番地戸主平民漁業

坂田宗吉

明治拾年五月五日生

右宗吉ニ對スル明治四拾五年九月拾五日失踪宣告ノ裁判同年月日確定候ニ付別紙裁判ノ謄本相添此段及御届候也

明治四拾五年九月五日

宣告請求者 坂田ラク園

神戸市戸籍吏山本正二殿

第二章 死亡

死亡届ノ記載事項

死亡者ノアリタルトキハ届出義務者ハ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五日内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書若クハ檢察書又ハ警察官ノ檢視調書ノ寫ヲ添ヘテ届出スヘシ

- 一 死亡者ノ氏名、出生ノ年月日、男女ノ別及本籍地
- 二 死亡ノ年月日及ヒ場所
- 三 死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名族稱及戸主ト死亡者トノ續柄

死亡届

東京市牛込區矢來町百五拾五番屋敷
戸主士族官吏 憲象長男

横山彦義

明治四拾五年五月參日生

死亡ノ時 明治四拾五年五月貳日午前九時
死亡ノ場所 東京市牛込區矢來町百五拾番屋敷
右死亡致候條別紙醫師ノ診斷書相添此段及御届候也
明治四拾五年五月貳日

戸主 横山 憲象 象印

東京市牛込區戸籍吏荒井國武殿

死亡届出義務者第一 戸主 第二 戸主死亡シタルトキハ相續人
第三 相續人定マラサルトキハ家族ヨリ 第四 同居者、家主、地
主、又ハ土地若シクハ家屋管理人ヨリ届出スヘシ

第二編

第十一章 家督相續

家督相續トハ一家ノ戸主權ガ喪失シタルトキ其家ヲ受繼ギテ戸主ト爲ルヲ云フ家督相續ヲ開始ス場合ハ左ノ如シ

- 一 戸主ノ死亡シタルトキ
 - 二 戸主ガ隠居シタルトキ
 - 三 戸主ガ失踪ノ宣告ヲ受ケルタトキ
 - 四 國籍ヲ喪失シタルトキ
 - 五 戸主ガ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ
 - 六 女戸主ノトコロニ入夫シタルトキ
- 以上ノ諸項ハ戸主ナルモノトス

家督相續届ノ記載事項

- 一 家督相續ニ因リテ戸主トナリタルモノハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月内ニ左ノ諸件ヲ具シ之ヲ被相續人(前戸主)ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届出ベシ
- 二 家督相續ノ原因及戸主ト爲リタル年月日
- 三 前戸主ノ名及前戸主ト家督相續人トノ續柄
- 四 家督相續人ガ外國ニ至ル場合ニ於テハ前項ノ届出ニハ三ヶ月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

家督相續人ノ順位

- 一 被相續人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ相續人ト爲ル
- 二 親等ノ異ナリタル者ノ間ニアリテハ其近キ者ヲ先ニス
- 三 親等ノ同シキ者ニ在リテハ男ヲ先ニス
- 四 親等ノ同シキ者又ハ女ノ間ニアリテハ嫡出子ヲ先ニス
- 五 親等ノ同シキ嫡出子庶子私生子ノ間ニ在リテハ嫡子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス
- 前四號ニ掲ゲタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

家督相續届

東京市京橋區木挽町百五拾八番屋敷
平民戸主銀行員 廣吉長男

家督相續人 高谷仲吉

明治拾年九月五日生

右ハ明治四拾五年九月五日前戸主廣吉(死亡又ハ隱居)ニ依リ家督相

續候間此段及御届候也

明治四拾五年九月十日

高谷 仲吉 印

東京市京橋區戸籍吏川崎新六殿

- 一 家督相續人指定届ハ戸籍法第百四十條ニ因リ被相續人ガ指定ノ相續人ナキタメ家督相續人ヲ指定スル文例ナリ(民法第百十三條參照)
- 二 左ニ記載要件ヲ示ス
- 一 指定家督相續人タルベキ者ノ氏名族稱出生ノ年月日職業及本籍地
- 二 相續ノ年月日

家督相續人指定届 (戸籍法第百四十條參照)

東京市芝區源助町壹丁目五拾番地
戸主平民酒商

指定家督相續人 有本二郎

明治拾七年五月五日生

右ハ法定ノ家督相續人ナキニ付家督相續人指定候間此段及御届候也

明治四拾五年五月八日

東京市芝區赤堀町貳丁目四拾九番地

戸主平民無職

被相續人 有本二郎

東京市芝區戸籍吏石田成正殿

指定相續人ヲ取消サントスルトキ其ノ要件ヲ記載スルモノトス

一 家督相續人ノ氏名族稱出生ノ年月日職業及本籍地

二 相續ノ年月日

此場合ニ於テ届出者ハ同時ニ家督相續人指定登記ノ取消ヲ申請スルモノトス

家督相續人指定取消届

東京市京橋區松屋町五百五拾番屋敷戸主定吉

二男平民吳服商

指定家督相續人

尾崎 丈平

明治四拾五年七月四日生

右ハ明治四拾五年九月八日家督相續人ニ指定候處今般取消候間此段

及御届候也

家督相續指定登記取消相成度此段併セテ申請候也

明治四拾五年九月八日

東京市京橋區松屋町貳百拾五番地

戸主平民雜貨商 丈平伯父

指定取消人

尾崎 林平

明治八年九月七日

東京市京橋區戸籍吏太田三郎殿



推定家督相續人廢除届

東京市京橋區新川町五百九拾番地

日主平民無職武夫長男

推定家督相續人

今井武夫

明治拾九年五月五日生

右武夫被相續人ニ對シ虚待ヲ爲シ侮辱ヲ加フル等到底家督ニ相續セシムヘキモノニアラサルニ依リ明治四拾四年九月五日指定家督相續人廢除ノ申請ヲナシ同年同月九日裁判確定候ニ付別紙判決ノ謄本相添此段及御届候也

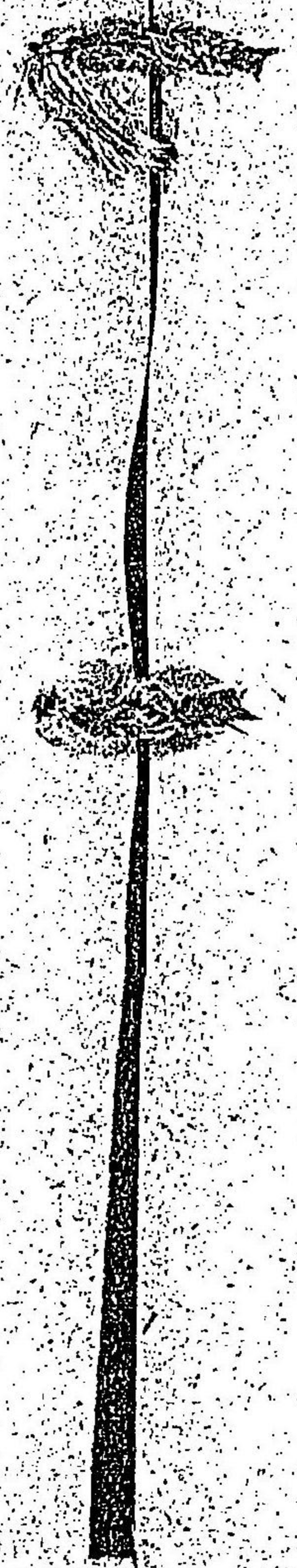
明治四拾四年九月拾日

被相續人

今井長雄

元治一年月九月三日生

東京市京橋區戶籍吏荒井新六殿



第十二章 入籍 離籍 及復籍 拒絕 入籍届ノ記載事項

- 一 民法七百三十五條第一項家族ノ庶子及ビ私生子ガ戸主ノ同意ヲ得テ入籍スルトキ
- 二 戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ルモノガ戸主ノ同意ヲ得テ家族トナルトキ
- 三 民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ婚家養家又ハ自家ノ家族ト爲サント欲スルトキ此場合ニ於テハ左ノ諸件ヲ具シ入籍ノ届出ヲ爲スモノトス
- 一 入籍スベキ家ノ戸戸ノ氏名出生ノ年月日職業及ビ本籍地
- 二 入籍スベキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スベキ者トノ親族關係
- 三 入籍スベキモノガ廢家シテ他家ニ入ルトキニ其旨
- 四 入籍スキモノガ家族ナルトキハ其去ルベキ家ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日職業本籍地及ビ入籍スベキ者トノ續柄

左ニ文例ヲ示ス

入籍届

大阪市北區上福島一丁目拾五番屋敷 平民大工職

入籍スキ家ノ戸主 小野 藤 吉

明治元年九月五日生
大阪市南區武平町壹丁目拾五番屋敷

平民無職

廢家ノ上入籍 岩 田 武 夫

明治參拾五年四月參日生

岩 田 武 夫 印

右入籍候間別紙何々同意證書相添此段及御届候也
明治四拾五年九月貳日
大阪市北區戸籍吏佐藤愛助殿

離籍届ノ記載事項

- 一 戸主ガ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シ届出スベシ
- 一 離縁セラルベキ者ノ氏名出生ノ年月日及ビ職業
- 二 離籍ノ原因及ビ其原因發生ノ年月日
- 三 離籍セラルベキ者ト共ニ家ヲ去ルベキ者アルトキハ其名出生ノ年月日職業及ビ其者ト離籍セラルベキモノトノ續柄

離 籍 届

東京市麻布區兵衛町五拾七番屋敷
戸主平民無職 寬一弟

川 合 三 作

三作ト共ニ家ヲ去ル妻
明治貳拾貳年參月九日生

右三作ハ明治四拾五年五月九日戸主ノ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シタルニ依リ離籍候間此段及御届候也
明治四拾五年八月九日

戸 主 川 合 寬 一 印
東京市麻布區戸籍吏山形清殿

離籍ニ因ル一家ヲ創立届ノ記載要件

離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 離籍ヲ爲シタル戸主ノ氏名出生ノ年月日職業及本籍地
- 二 離籍ヲ爲シタル戸主ト届出人トノ續柄
- 三 離籍ノ原因及ヒ年月日
- 四 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名出生ノ年月日職業及ヒ其者ト届出人ノ續柄

離籍ニ因ル一家創立届

東京市神田區雉子町拾五番地戸主平民紙商

離籍ヲ爲シタル戸主 中島 定一

明治元年九月拾日生

東京市神田區雉子町拾八番戸主平民無職

一家創立者 定一二男 中島 泰輔

明治拾八年五月五日生

泰輔ノ家ニ入ル妻

タツ

明治拾九年三月貳日生

右泰輔ハ父定雄ノ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シタルガ爲メ明治四拾四年五月九日離籍セラレタルニ因リ一家創立候間此段及御届候也

明治四拾五年九月五日

中島 泰輔 印

東京市神田區戸籍吏岡村重藏殿

戸主ガ家族ノ復籍ヲ拒ム場合

家族ガ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ベキ規定ナリ然ルニ之ニ反シ戸主ノ同意ヲ得ズ婚姻及養子縁組ヲ爲シタルトキハ民法第七百五十條ニ因リ一年内ニ離籍又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得ベキモノトス

廢家ヲ拒マレタルトキ

此場合ニ於テハ其家ニ入ルコト能ハザルニ付一家創立セザルベカラズ書式ハ前述離籍ニヨル一家創立届ト同シキモノトス

第十三章 廢家 絶家及分家

廢家トハ如何及廢家シ得ヘキモノ

廢家トハ戸主タルモノガ婚姻入籍ナドノ事由ニヨリテ其家ヲ廢スルヲ謂フ左ニ廢家シ得ベキ者ヲ示サン

- 一 新ニ家ヲ立テタル戸主即チ家督相續ニ依リ戸主トナリタルモノニアラザルモノ
- 二 本家相續又ハ再興其他正當ノ事由ニヨリ裁判所ノ

許可ヲ受ケタルモノ

廢家届ノ事記載項

廢家ヲ爲サント欲スルモノハ左ノ諸件ヲ具シ家督相續ニヨリテ戸主ト爲
リタルモノニ非ラザルコトノ證明書又ハ廢家ノ許可ニ關スル裁判ノ謄本
ヲ添ヘテ之ヲ届出スルコトヲ要ス

一 廢家シタル者ガ入ルベキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及本
籍地

二 廢家シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ氏名出生ノ年月日及ビ職業

廢家届

大坂市東區瓦町八番地戸主紙商

廢家人 武田熊一

明治拾五年九月五日生

妻 妻

明治拾八年四月壹日生

大坂市東區瓦町五番地戸主平民竹商

熊一ノ入ルベキ家ノ戸主 濱口爲次

爲次

明治元年九月五日生

右廢家候間家督相續ニ因リ戸主ト爲リタルニ非ラザルコトノ證明書
相添此段及御届候也

明治四拾五年六月九日

武田熊一印

大坂市東區戸籍吏山形清殿

- 一 絶家 絶家トハ家督相續人ナキ爲メ其家ガ斷絶スルヲフ但シ絶家ノ諸件ヲ具シ絶家及一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス
- 二 絶家最終ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日職業及本籍地
- 三 絶家ノ原因及ビ年月日
- 四 一家創立シタル者ニ隨ヒテ其家ニ入ル者ノ氏名、出生ノ年月日及ビ職業 (左ニ文例ヲ示ス)

絶家及ヒ一家創立届

東京市京橋區新川町五番地戸主平民無職

絶家最終ノ戸主亡

山田 四郎

嘉永貳年九月七日生

東京市京橋區委女町貳番地士族官吏

一家創立者 四郎甥

山田 義象

明治五年九月參日生

義象妻

トシ

明治八年九月五日生

右四郎家督相續人ナキニ因リ明治四拾五年九月拾日絶家候ニ付一家創立候間此段及御届候也

明治四拾五年五月廿日

山田 義象 印

東京市京橋區戶籍吏土方熊八殿

分家届ノ記載事項

- 分家ヲ爲ス家族ハ戸主ノ同意ヲ得ルモノトス若シ其家族未成年者ナルト
- キハ父又ハ母若クハ後見人ノ同意ヲ得ルモノトス左ニ記載要件ヲ記ス
- 一 分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地
- 二 本家ノ戸主ノ氏名職業本籍地及其戸主ト爲ルヘキ者トノ續柄
- 三 分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其名出生ノ年月日及ヒ職業
- 四 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名職業及ヒ本籍地

分 家 届

東京市東森本町貳丁目五拾參番屋敷
平民戸主吳服商

本家戸主 杉 本 正 清

東京市麻布區材木町五拾番屋敷
平民木綿商 正清弟

分家戸主 杉 本 行 雄

東京市深川區森本町貳丁目五拾番地
明治八年九月五日生

東京市京橋區堀留町貳百四拾番屋敷

右父 松本正藏
右母 松本正藏
分家ノ家族行雄妻 トキ

右父 山田廣藏
右亡母 サク

右分家候間別紙戸主ノ同意書相添此段及御届也

明治四拾五年五月七日

杉本行雄 印

東京市日本橋區戸籍吏西山常吉殿

絶家再興届ノ記載事項

- 一 廢絶ヲ再興セント欲スルモノハ左ノ諸件ヲ具シテ届出スベシ
- 一 廢絶最終ノ戸主ノ氏名職業及本籍地
- 二 廢絶ノ原因及ヒ年月日
- 三 廢絶シタル家ト再興ヲ爲ス者ノ續柄
- 四 再興ヲ爲ス者ノ戸主ノ氏名出生年月日職業及ヒ本籍地
- 五 再興ヲ爲ス者ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキ者ノ名生出ノ年月日及職業

絶家再興届

東京市芝區新堀町五番地戸主無職

絶家最終ノ戸主亡 山本逸峯

東京市芝區新堀町五番地戸主指物職

藤輔(慶應三年五月五日生)三男無職業

絶家再興人 逸峯甥 山本金次

明治拾八年九月五日生

右逸峯家督相續人ナキニ付明治五年五月五日絶家候處今般同家ヲ再興候間別紙戸主ノ同意書相添此段及御届候也

明治四拾五年五月五日

山本金次 印

東京市芝區戸籍吏近藤高吉殿

第十四章 氏名族稱ノ變更

氏名ヲ變更シ得ベキ場合及ビ手續

氏名ハ濫リニ變更スベキモノニアラズ然レドモ離縁ニ因リテ實家ニ復籍

スベキ場合ニ其ノ實家ガ廢絶家爲シタル時ハ氏ヲ復舊スルノ必用アリ又同町内ニ同氏名ノ者アルカ或ハ商家ナトニ於テハ前戸主ノ名ヲ繼襲シ來リテ商業上不便ナル場合ニ限り變更ヲ爲スベキモノトス此變更ノ申請ハ先ハ其事情ヲ具シ管轄官廳ノ許可ヲ得テ而シテ後之ヲ戸籍ニ届出ルモノトス 左ニ文例テ示ス

第十三章 氏名族稱ノ變更

氏復舊届

復舊前氏名

井上五郎

復舊シタル名

田中五郎

右何々(復舊ノ原因)ニヨリ明治四拾五年五月九日東京府ノ許可ヲ得テ前記ノ通り復舊候條別紙認可書ノ謄本相添此段及御届候也 明治四拾五年五月拾五日

東京市牛込區稻田町壹丁目拾貳番地

井上五郎

東京市牛込區戸籍吏川崎新六殿

名改稱届

東京市神田區三河町參丁目五番地 戸主平民酒商

改稱前氏名 犬飼新吉

改稱シタル名 源吉

右ハ何々(改稱ノ原因)ニヨリ明治四拾五年五月九日東京府ノ許可ヲ得テ前記ノ通改稱致候間別紙許可書ノ謄本相添此段及御届候也 明治四拾五年九月拾日

右 犬飼源吉

東京市神田區戸籍吏山崎新六殿

族稱變更届

東京市芝區三田四國町貳拾五番地

戸主官吏 舊族稱士族

新族籍 華族 馬瀬東助

右明治四拾五年五月七日華族ニ列セラレ候ニ付別紙辭令書相添此段
及御届候也
萬延貳年九月五日生

明治四拾五年九月拾日

右

馬瀬東助印

東京市芝區戸籍吏上妻政雄殿

名改稱願

東京市神田區三河町參丁目五番地

戸主平民酒商

改稱前ノ氏名

犬飼新吉

改稱シタル名

源吉

右ハ何々(改稱ノ原因)ニヨリ差支不少候ニ付改稱致シ度依テ御許可
相成度別紙戸籍謄本相添此段及御願候也

明治四拾五年八月九日

右

犬飼新吉印

東京市神田區戸籍吏川崎新六殿

第十四章 轉籍 就籍 除籍

轉籍ニハ戸籍吏ノ管轄地外ニ本籍ヲ轉スル場合ト戸籍吏ノ管轄地内
ニ轉籍セントスル場合ト二種アリ管轄外ニ轉籍セント欲スルトキハ届書
ニ通ラ作ラザルベカラザルモ管轄地内ニ轉籍セント欲スルトキハ新舊本
籍地ヲ記シ一通ニテ足ル前者ハ轉籍ニカ、ルモ後者ハ籍面ノ變更ノミト
ス

轉籍届

東京市芝區源助町壹丁目五拾番屋敷
戸主平民洋服商

藤井國次

明治拾八年拾月五日生

妻

明治拾九年八月六日生

轉籍地 神戸市橋町通五丁目貳百五拾八番地

右轉籍候間別紙戸籍謄本相添此段及御届候也

明治四拾五年九月五日

神戸市戸籍吏青正殿

藤井國次印

本籍地變更届

原籍地 東京市日本橋區堀留町參丁目五番地
新本籍地 同市 同 區堀留町貳丁目參番地
右ノ通り本籍地變更候間別紙謄本相添此段及御届候也
明治四拾五年九月拾五日

東京市日本橋區堀留町貳丁目參番地
戸主平民煙草商

中島定雄印

明治拾八年九月五日生

東京市日本橋區戸籍吏青山猛夫殿

就籍トハ届出人ノ闕漏ニヨリ(例ハ届出ヲ怠リタルカ爲メニ戸籍面ニノリヲラサルヲ謂フ)本籍ヲ有セサル者カ裁判所ノ許可ヲ得テ新ニ戸籍簿ニ登記スルヲ云フ此場合ニハ裁判確定ニヨリ其謄本添十日内ニ届出スヘシ

就籍届

東京市麻布區材木町貳百五拾九番地
戸主平民酒商

就籍者 山本肇

明治拾五年九月八日生

右父 山本傳藏
右母 夕カ

右ハ届出ノ闕漏ニヨリ本籍ル有セサリシ處明治四拾五年五月九日就籍ノ裁判確定候間別紙裁判所ノ謄本相添此段及御届候也
明治四拾五年五月拾五日

東京市麻布區戸籍吏川崎新六殿

山本肇印

除籍トハ届出ノ錯誤其他復本籍ヲ有スル場合ニ於テ之カ除籍ノ届出ヲ爲スモノニシテ以上ノ如キ事實ノアリタルトキハ先其地ヲ管轄スル區裁判所ニ除籍許可ノ申請ヲ差出然後裁判ノ謄本ヲ添十日以内ニ戸籍吏ニ届出ツルモノトス

除籍届

本籍 愛知縣名古屋市富澤町壹丁目五番地
復本籍 全縣全市長島町貳丁目參番地
戸主平民雜貨商

有松由清

右ハ何々(復本籍ヲ有スル原因ニヨリ)復本籍ヲ有シ候處明治何年何月何日除籍許可ノ裁判確定致シ候ニ付裁判相添此段及御届候也
明治四拾五年九月八日

有松由清印

名古屋市戸籍吏杉江國次殿

四三二一

第十六章 寄留

寄留届ハ戸籍法ニ非ラザスシテ内務省令ニ属スルモノナリ左ニ心得ヲ示ス
寄留届ハ寄留地ノ戸籍役場ニ本人之ヲ爲ス
本籍地ト寄留地ト戸籍役場ガ異ナルトキハ届書ニ通差出スベシ
寄留届ニハ借地及家ノ連署ヲ得ベキモノトス
届出期間ハ寄留シタル日ヨリ十日以内ニ届出ベキモノトス若シ正當ノ事由ナクシテ怠リタルトキハ二十錢以上壹圓九十五錢以下ノ過料ニ處セララルベシ

寄留届

東京市日本橋區堀留町參丁目五番地
平民無職

戸主 松原孝次

明治元年九月五日生

妻 イト

右ハ明治四拾五年九月五ヨリ横濱市花吹町五番地へ寄留致候間連署

ヲ以テ此段及御届候也
明治四拾五年九月八日

松原孝次郎

横濱市花吹町五番地平民酒商
右家主 山口五平郎

横濱戸籍吏市入山周造殿

退寄届

東京市日橋本區堀留町三丁目五番地平民無職

長男 松原孝次郎

妻 松原孝次郎

長男 松原定助

右ハ是迄横濱市花吹町五番地へ寄留致居候處本月五日限り退寄候ニ

因リ此此段御届候也

明治四拾年九月五日拾日

明治八年四月五日生

長男 松原定助

明治三拾五年九月五日生

横濱市戸籍吏入山周造殿

戸主 松原幸次郎
山口五平郎

復皈届

東京市日本橋區堀留町參丁目五番地
戸主平民無職

松原幸次郎

右ハ横濱市花吹町五番地ニ寄留候處本月拾九日復皈候ニ付此段及御

届候也
明治四拾五年八月七日

右

東京市日本橋區戸籍吏山形清殿

松原幸次郎

印鑑願 (印鑑願戸籍法以外參考ノ爲メ著ス)

東京市京橋區雉子町貳目丁五番地
士族官吏

山鹿民介

印鑑氏名

右ノ者今般前掲印鑑ノ通り新調(或ハ磨減ニ付調製)自今拙者實印ト
シテ使用慾ニ付御證明成度此段及御願候也
明治四拾五年五月九日

右

山鹿民介印

東京市京橋區戸籍吏山本肇殿

印鑑ハ縦五寸厚紙ノ上ニ印ヲ押シ其ノ下ニ氏名ヲ書シ願書ニ張附スベシ
帝國戸籍文例終

明治四拾五年五月五日印刷
明治四拾五年五月二拾日發行

著者 淺野十藏

發行所 岐阜縣羽島郡竹ヶ鼻上鍋屋町五百九十番地
法令攷究會

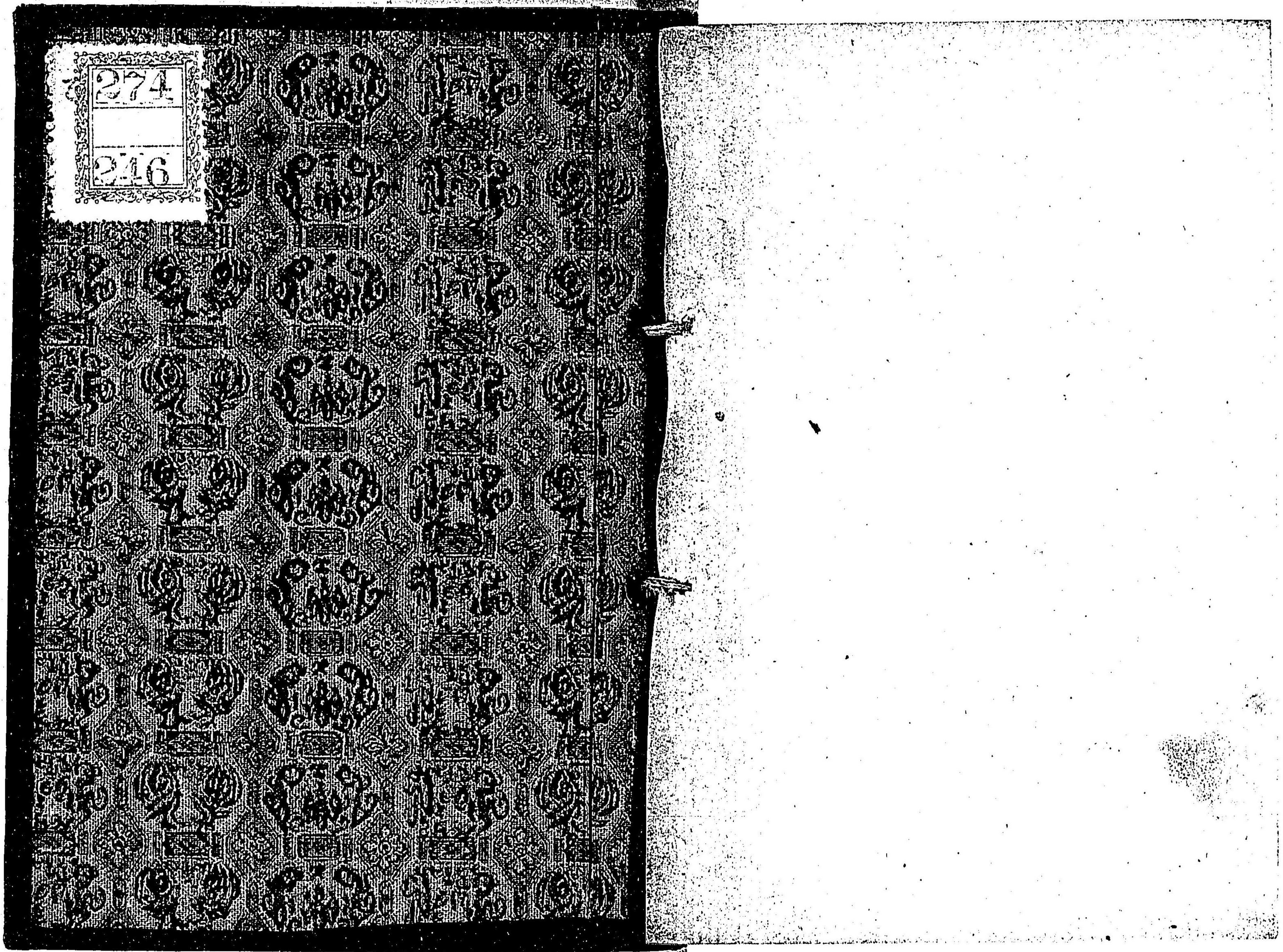
印刷者 愛知縣愛知郡御器村中屋敷三十五番地
安藤定吉

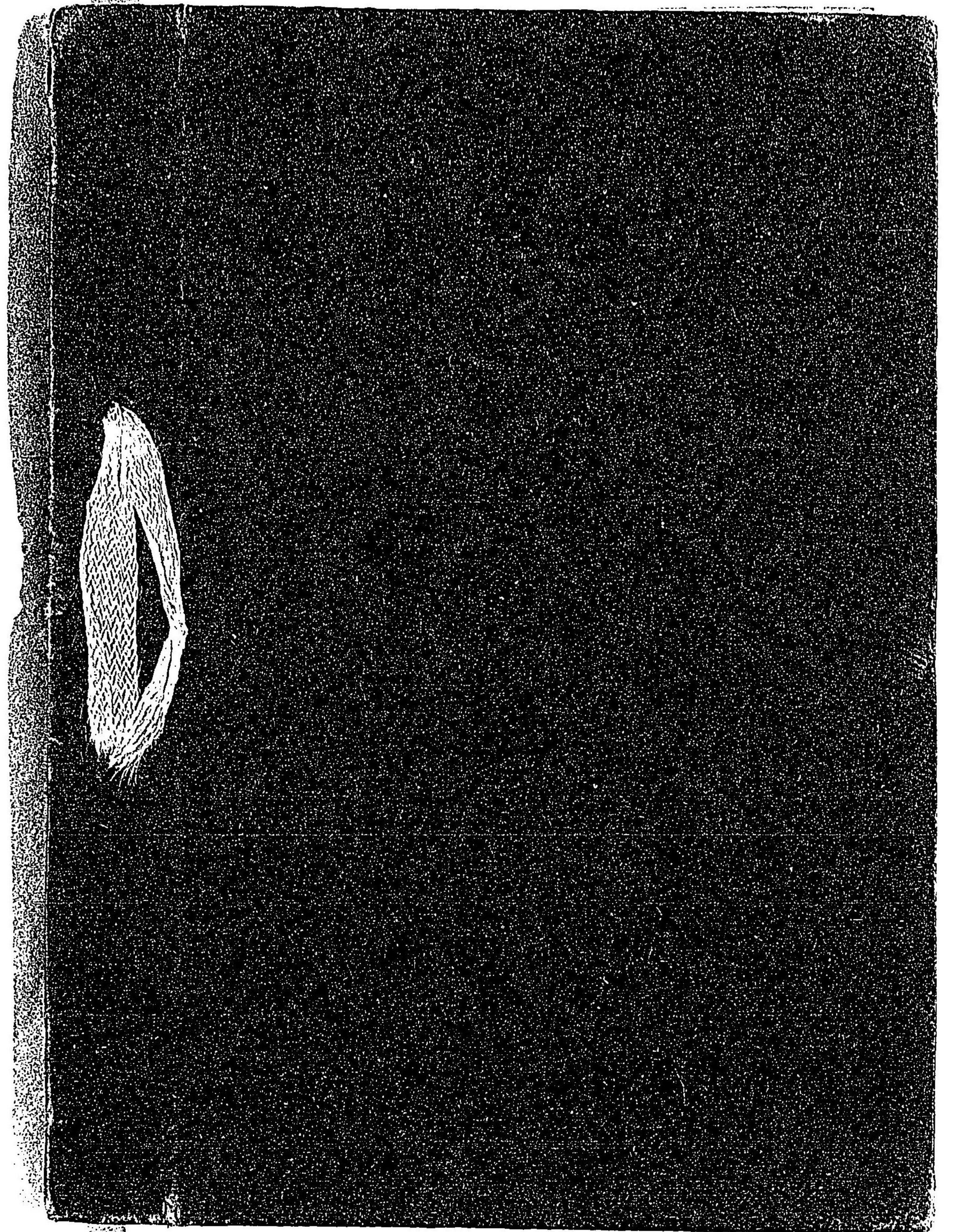
印刷所 名古屋市東區東門前町一丁目七番地
西川活版印刷所

不許複製

274

216





特 71

771

301354-001-2

特71-771

加除自在現行法規文例

淺野 十蔵 / 著

M45.5

BBA-0001

